

2014 年度春学期授業アンケート総評

教育・研究推進センター所長

山 本 寿

2014 年度においては前年度に引き続き、全科目を対象として授業アンケートが実施されたので、意味のある全学的な経年比較が初めて可能になった。その結果、春学期では、次の 2 点において注目すべき変化が見られた。

1. 全学的なクラス実施率が 97.8% と前年度より 0.2% 上昇し、回答率が 83.8% と前年度を 0.7% 上回った。特に、前年度低かった医療薬学科科目区分と社会システム学科科目区分の回答率が前年度に比べてそれぞれ 8.3% と 3.6% 向上したことは喜ばしい。

2. 授業時間外学習時間が全学平均で 1 科目当たり前年度 0.61 h/W から 0.65 h/W (39 分) へと 0.04h/W (= 2 分 24 秒) 増加した。特に、現代こども学科科目区分において 0.22 h/W (= 13 分 12 秒) と大きな増加が見られた。

この「授業時間外学習時間」については、従来、学生が定義を誤解している可能性が指摘され、現在は正確な定義を浸透させている時期であり、上記のように今後も特定の科目区分で大きく変動する可能性がある。この状態をできるだけ早期に安定化させ、正確な学習時間把握が可能になるよう努めるべきであろう。